

国立病院機構熊本医療センター

No.248



くまびょうNEWS

NHO KUMAMOTO MEDICAL CENTER KUMABYO NEWS

発行所
国立病院機構熊本医療センター
〒860-0008
熊本市中央区二の丸1番5号
TEL (096) 353-6501 (代)
FAX (096) 325-2519
連携室直通 TEL (096) 353-6693
連携室直通 FAX (096) 323-7601

平成29年度 第2回

開放型病院連絡会開催が迫りました

平成29年度第2回（通算44回）国立病院機構熊本医療センター開放型病院連絡会を、来る2月24日（土）午後6時30分より、当院地域医療研修センターホールにて開催致します。

今回の特別講演は、厚生労働省医政局総務課 医療安全推進室長 名越 究先生をお招きして行います。演題は「我が国の医療安全施策の動向」です。

先生方をはじめ、看護部門、メディカルスタッフ部門、MSW、事務職員など多くの皆さまにご参加いただきますようお願い申し上げます。なお、新規登録医の受付も当日、会場でできます。登録の際は会場受付担当者にお申し付けください。

（管理課長 福田信也）

第44回国立病院機構熊本医療センター開放型病院連絡会

日時：平成30年2月24日（土）午後6時30分

場所：国立病院機構熊本医療センター（2階 地域医療研修センター）

－ 内 容 －

（1）開放型病院連絡会総会

1. 症例提示

①「リンパ浮腫外来開設について」

形成外科部長

大島 秀男

②「子どもの総合医をめざして」

小児科部長

水上 智之

2. 地域医療連携室からのお知らせ

地域医療連携室長

渡邊健次郎

3. 紹介予約センターからのお知らせ

地域医療連携副室長

菊川 浩明

（2）特別講演

「我が国の医療安全施策の動向」

厚生労働省医政局総務課 医療安全推進室長 名越 究 先生

【連絡先】国立病院機構熊本医療センター管理課 電話 096-353-6501内線5690（福田・毛利）

基本理念

最新の知識・医療技術と礼節をもって、
良質で安全な医療を目指します。

運営方針

1. 良質で安全な医療の提供
2. 政策医療の推進
3. 医療連携と救急医療の推進
4. 教育・研修・臨床研究の推進
5. 国際医療協力の推進
6. 健全経営

患者様の権利

1. 良質かつ適切な医療を公平にうける権利があります
2. ご自身の医療について理解しやすい言葉と方法で十分な説明と情報を受ける権利があります
3. 病院から説明と情報を得た上で、自らの意志で治療を受け、あるいは選択し、拒否する権利があります
4. 自分の診療記録の開示を求める権利があります
5. セカンド・オピニオンを求める権利があります
6. 個人としての人格の尊重とプライバシーの保護を受ける権利があります



「当院にとっての 国立病院機構熊本医療センターとは」

桜間脳神経外科

院長 櫻間 智孝



国立病院機構熊本医療センターの皆様には、いつも大変お世話になっております。この場をお借りして、御礼申し上げます。

折角の機会ですので、少しばかり当院について書かせていただきたいと思います。

昭和57年に私の父が、現在の地、浄行寺バス停の目の前に開業いたしました。頭痛、打撲、麻痺、認知症等の脳神経外科・神経内科の疾患だけでなく、高血圧、糖尿病、高脂血症、風邪等の内科系疾患も診療をさせていただいております。特に脳卒中の症状（急におこった手足の使いにくさや痺れ）に対しては、緊急MRIを施行し、治療に当たらせていただいております。又、その際にも、より詳しい精査が必要な患者様、重症な患者様に関しましては、高度医療機関である国立病院機構熊本医療センターへ治療依頼をさせていただくことも多く、いつも快く受け入れていただき、心より深く感謝申し上げます。

国立病院機構熊本医療センターは、当院にとりまして、最も近いだけでなく、掛替えのない高度医療機関でございます。

これからも、病院診療所の連携をとりながら、少しでも患者様のお役に立てればとおもいますので、今後とも宜しく御願いたします。

平成29年度 第2回 熊本市歯科医師会・国立病院機構熊本医療センター連絡協議会報告

平成29年度第2回熊本市歯科医師会・国立病院機構熊本医療センター連絡協議会が12月14日（木）午後7時より、熊本医療センター会議室で開催されました。熊本市歯科医師会からは宮本格尚会長、田中弥興副会長、渡辺猛士副会長、有働秀一医療管理理事、高橋禎医療管理委員長に出席いただき、当院より高橋院長、大塚副院長、清川副院長、渡邊統括診療部長、原田救命救急科医長、中島歯科口腔外科部長が出席しました。

高橋院長、宮本会長からの挨拶の後、議事に入りました。まず中島部長から当院の歯科紹介率と紹介人数の実績について、次いで、原田医長から当院の歯科救急医療について、中島部長より歯科関係の今年度と来年度に行われる講演会・セミナーの紹介がありました。

最後に大塚副院長から、平成29年度第2回国立病院機構熊本医療センター開放型病院絡会が2月24日（土）



連絡協議会の様子

午後6時30分から、当院地域医療研修センターにて開催されることが案内されました。その他、当院の新外来棟、医科歯科連携の話題等があり、当病院と熊本市歯科医師会とのさらなる連携を確認して閉会となりました。（歯科口腔外科部長 中島 健）

熊本大学大学院生命科学研究部 小児外科移植外科教授 日比泰造教授の特別講演が行われました

平成29年10月に熊本大学大学院生命科学研究部、小児外科・移植外科の教授に就任されました日比泰造(ひび たいぞう)先生の特別講演が、12月13日研修センターホールにて行われました。

先生は慶應義塾大学御出身で、国立がんセンター中央病院にて腫瘍外科・肝胆膵外科の修練ののち、慶應義塾大学で生体肝移植を、さらにその後米国マイアミ大学に留学され成人・小児の脳死肝・腎・膵移植、小腸・多臓器移植など非常に多くの手術を手掛けられました。講演では、ビデオであざやかな手術技術も紹介していただきました。



ご講演される日比泰造教授



特別講演会場の様子

また日比教授の最初の学会発表時の座長が、今回の座長をお引き受けいただいた猪股前教授(現熊本労災病院院長)だった縁や、熊本県下での脳死移植ドナー提供は3例すべてが当院からであり、当院への期待にも触れていただきました。

先生は44歳になられたばかりと非常に若いのですが圧倒的な診療経験・技術があり、先頭を切ってこれからの外科医療を切り開いてゆくという熱い思いが伝わりました。すでに世界を舞台に活躍されていますが、さらなる発展が熊本の地でなされるのがとても楽しみです。(臨床研究部長 日高道弘)

平成29年度

地域医療支援病院運営委員会が開催されました

平成29年度の国立病院機構熊本医療センター地域医療支援病院運営委員会が平成29年12月12日(火)16時より当センター会議室にて開催されました。協議会には委員長の熊本市医師会会長 福島敬祐先生をはじめ、熊本市歯科医師会会長 宮本格尚先生、熊本県健康福祉部健康局長 田原牧人様、熊本市保健所所長 長野俊郎様、熊本大学附属病院地域医療支援センター長 松井邦彦先生にご出席をいただきました。

高橋院長、福島委員長のご挨拶の後、事務局より①紹介率・逆紹介率の実績、②共同指導の実績、③救急医療の提供実績、④地域の医療従事者の資質向上を図るための研修実績などについて報告がありました。

地域医療支援病院として承認を受け、15年を迎えました。要件である紹介率も基準を満たして推移しております。これも一重に開放型病院登録医の先生方をはじめ、当院を信頼して患者様をご紹介して下さる先生方のおかげと深く感謝申し上げます。今後ともご指導の程、よろしくお願い致します。(経営企画室長 前田光一郎)



熊本市医師会会長 福島敬祐先生のご挨拶の様子

国立病院シャトルバス ダイヤ改正

患者様やご家族が、より便利にご利用しやすくなるように国立病院シャトルバスの病院発を増発します。ぜひご活用下さい!!



運賃：大人150円・小人80円

国立病院発 → 通町筋、水道町方面行き (交通センター経由)										
運行時刻表										
平日日祝運行 ※年末年始は運休いたします										
F	国立病院構内発	9:10	10:10	11:00	12:00	13:30	14:30	15:30	16:30	18:00
E	国立病院前	9:11	10:11	11:01	12:01	13:31	14:31	15:31	16:31	18:01
D	交通センター⑱番のりば	9:16	10:16	11:06	12:06	13:36	14:36	15:36	16:36	18:06
C	市役所前	9:18	10:18	11:08	12:08	13:38	14:38	15:38	16:38	18:08
B	通町筋	9:21	10:21	11:11	12:11	13:41	14:41	15:41	16:41	18:11
A	水道町(3号線沿い)着	9:25	10:25	11:15	12:15	13:45	14:45	15:45	16:45	18:15

救急看護エキスパートナース研修が行われました

平成29年12月11日（月）～12月15日（金）の5日間、国立病院機構九州グループ主催の救急看護エキスパートナース研修が当院で開催されました。救急看護に必要な専門的知識と技術を習得するために、九州の各施設から12名の受講生が参加されました。研修ではシミュレーターを使用したフィジカルアセスメントやメンタルアセスメント、症例検討会、病棟研修、グループディスカッションなどを行いました。

シミュレーションやグループディスカッションでは活発な意見交換が行われました。救急看護に携わる看



シミュレーションの様子

護師として共に学ぶ姿がみられ、自己のスキルアップはもちろん、自施設のレベルアップを目指すために、切磋琢磨する姿は非常に頼もしいものを感じました。

今後、受講生は各施設に戻り学んだことを実践していきますが、各施設に求められる役割を見極めつつ、救急看護の質の向上に取り組んでいかれることと思います。

（救命救急センター副看護師長 救急看護認定看護師
今村祐太）



研修生の講義の様子

平成29年度合同慰霊祭を終えて

12月18日（月）、平成29年度合同慰霊祭が地域医療研修センターで執り行われました。本年は、平成28年9月から平成29年8月までの1年間に当院でお亡くなりになられた患者様648柱が対象で、多くの病院職員の方々に参列を頂きました。

式典は午後1時から始まり、高橋院長による追悼の辞では、「私共は、この厳粛なる事実を銘記し、医学の進展に遅れることなく日々研鑽を重ね、更なる医療の向上と安全確保に努める覚悟です。」との言葉がありました。



高橋院長による追悼の辞

その後、お亡くなりになられた故人に哀悼の意を表し、式典に参列した職員全員による献花が粛々と行われ、式典は終了いたしました。

また、参列した職員だけでなく、式典終了後も病院職員が献花できるように午後4時まで祭壇はそのままとし、多くの職員の方々に献花を頂きました。

最後に、この合同慰霊祭に参列頂きました全ての職員の方々のご協力により、滞りなく終了できましたことに厚く御礼申し上げます。

（経営企画室長 前田光一郎）



地域医療研修センターに置かれた祭壇

二の丸がんサロン Xmasコンサートが行われました

二の丸がんサロンは、がんを体験した方々が集い、ほっと一息つきながら語り合い、支えあう交流の場です。12月は、サロン参加者の方々の「二の丸がんサロンをもっと多くの方に知ってほしい」、「院内のみなさんに癒しの時間を提供したい」との思いで、演奏ボランティア『美齡重（みれいじゅ）』とのコラボレーション企画によるトーンチャイムクリスマスコンサートが開催されました。外来受診にいられて足を止めてくださる方、病室から看護師や医師と一緒に観覧に来てくださる方、たくさんの方が集っていただきました。トーンチャイムに合わせて一緒に歌ったり、トーンチャイムを体験したり、癒され、そして楽しめるクリスマス



「美齡重」の方々の演奏の様子

コンサートでした。観覧された方からは、「聴いているだけなのに涙がでてしまいました。来てよかった」とのお声を頂きました。サロン参加者の方々も、「企画してよかったね！」と分かち合われました。

二の丸がんサロンは、毎月第1金曜日（13：00～15：00）に開催しています。他病院へ受診している方も参加可能で地域に開かれた交流の場です。参加ご希望の方がおられましたら、がん相談支援センターまでお尋ね頂きますよう、お声かけお願い致します。

（がん相談支援センター 方尾志津）



トーンチャイムを体験される観覧者

小児科病棟でXmas会が行われました

平成29年12月20日に6西病棟（小児科）デイルームにてクリスマス会を開催いたしました。看護師によるハンドベル演奏や企画課職員の秦さんによるギターの弾き語り、そしてサンタクロースに扮した小児科の先生方の登場など、会場には笑顔があふれ楽しいクリスマス会となりました。患者さんからは「病院でクリスマスを堪能できるなんて！とても楽しかったです。」というお声をいただきました。30分という短い時間ではありましたが季節を感じていただき、スタッフ一同嬉しく思っています。



サンタクロース等に扮した小児科の先生方

ご協力いただいた皆様、誠にありがとうございました。今後も、患者さんと一緒に楽しめるような季節行事を計画していきたいと思っております。

（6西病棟看護師 川島千愛）



企画課 秦さんのギター演奏

公開肝臓病教室が開催されました

平成29年12月16日（土）に、今年で9回目となる公開肝臓病教室を開催いたしました。

今年は28名の方に参加いただき、うち8名が肝炎ウイルスの検査を受けられました。

杉消化器内科部長のあいさつで始まり、第一部では肝疾患に対する最新治療・助成制度について中田消化器内科医長、薬物治療について私横田、食事について志岐栄養士より講演を行いました。第二部では医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師・管理栄養士による医療相談のコーナーを設けました。参加された患者さんからは数多くの相談・質問があり、不安の解消に少しはお役に立てたのではないかと思います。来年以降もまた参加したいと思っています。ただけのような教室を開催していきたいと思っています。

また、毎月第3金曜日（変更の場合有）にも疾患ごとにテーマを設けて肝臓病教室を開催しておりますので、興味のある方はぜひご参加ください。



肝臓病教室スタッフ

（薬剤部 主任薬剤師 横田千明）

「救急認定薬剤師」を取得しました

救急の分野では循環作動薬や鎮静薬、抗菌薬など様々な薬剤が使用されています。その投与量はどの患者にも同一の投与量ではなく、体格や腎機能など患者の状態に応じた投与が必要となります。また、多剤併用による配合変化や副作用の問題も生じます。救急認定薬剤師はこのような救急医療に関する薬剤の高度な知識を持った薬剤師に対して日本臨床救急医学会が認定している制度です。今後も地域の救命医療に貢献できるように研鑽を積んでまいります。

（薬剤部 救急認定薬剤師 井上大奨）



熊本県の救急に関与する薬剤師で研究会（PRIME）を立ち上げました。当院からは井上、濱崎が参加しています。



井上 大奨

共同指導をご活用下さい

先生方には日頃より患者様のご紹介を頂きありがとうございます。

共同指導は、かかりつけ医からのご紹介の患者様をご入院された場合、ご紹介を頂いた先生に当院にお越し頂き、当院の担当医師と共同で診療を行うものです。患者様は、かかりつけ医と当院の担当医師とで情報交換を行うことにより、入院中および退院後の治療をよりスムーズに受けることができます。

ご紹介頂いた患者様をご入院されましたら、共同指導のご案内をFAXさせていただきますので、ご活用下さい。

※共同指導を行う為には登録医になって頂く必要があります。申込用紙に必要事項をご記入頂くだけで結構ですので、地域医療連携室（096-353-6693）にお気軽にお問い合わせ下さい。

当院へご紹介頂いた患者様の最善の治療を行うために共同指導の制度を是非ご活用下さい。



地域医療連携室長 渡邊健次郎

国立病院機構熊本医療センター 音楽部定期演奏会が開催されました



当院音楽部は、平成28年から活動を開始し、定期演奏会を行っています。

昨年は、12月2日に熊本市の老舗ライブハウスジャングにて、定期演奏会を開催しました。音楽部としては初のライブハウスでの音楽活動であり、緊張と興奮と躍動感みなぎるライブでした。7バンド総勢28名で演奏し、ロック、ポップス、歌謡曲、クラシック、CMソングを演奏し賑やかな4時間でした。寒い中、多くのお客さんに来場いただき、大変感謝しています。

音楽部は、医師・看護師・PT・SWにより活動しています。院内にとどまらず、熊本大学病院の方々やその他一般の方々とも交流をはかり、共演して活動しています。

今後も定期的に活動していく予定ですので、幅広い年齢層を対象に音楽活動に参加できる方や鑑賞に興味のある方は、是非音楽部メンバーにご連絡ください。

暖かくなった頃に、次回開催を予定していますので、皆様ぜひ一緒に楽しみましょう！

(救命救急センター 看護師 野々原みつ子)



定期演奏会の様子

病院増改修整備工事の進捗状況

土壌の関係から困難を極めていた杭打ち工事もようやく12月末に終了することができ、いよいよ建物の建築が始まります。工事に先駆けて、先日、タワークレーンが設置されました。当院は防災ヘリやドクターヘリによる患者受入を行っているため、タワークレーンについてはヘリコプターの運行に支障が生じないようにする必要があり、事前にそれぞれの運行管理ご担当者との調整も行いました。

なお、以前からお知らせをしておりましたが、1月中旬から更に駐車スペースが制限されております。皆さま方へは何かとご不便をお掛けして申し訳ありませんが、引き続き何卒ご理解とご協力を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。
(業務班長 安藤隆幸)



設置されたタワークレーン

<今後のスケジュール予定>

- ・研修棟、売店食堂棟解体：Step 2 平成29年4月～平成29年8月(終了)
- ・増築棟新築工事：Step 3 平成29年9月～平成30年11月
- ・外来棟改修工事：Step 4 平成30年12月～平成31年8月

(※スケジュールは、今後の工事進捗状況によって変更する場合があります。)

地域医療連携室直通電話をご利用下さい

先生方には日頃より患者様の御紹介を頂きありがとうございます。

当院は、地域医療連携室へのお電話が繋がりにくいのご指摘を受け、直通電話を設置致しております。

この直通電話は、関係医療機関の皆様から頂くお電話のみをお受け致します。患者様からの直接のご相談は、これまでどおり代表電話を通じて承る予定です。

医療機関の皆様のための直通電話になります。ホームページ等では公表いたしておりませんので、ご了承下さい。

今後ともよろしく願い申し上げます。

地域医療連携室長 渡邊健次郎

地域医療連携室直通電話 **096-353-6693**

月～金(祝日を除く) AM 8:30～PM 17:00



最近のトピックス

がん治療センター近日、始動 —理想的ながん診療を目指して—

腫瘍内科部長

境 健爾



【背景】

2007年がん対策推進基本計画が閣議決定され、2008年2月国から当院はがん診療連携拠点病院に指定されました。拠点病院として地域で完結するがん医療水準の向上に資するため、2015年4月から「腫瘍内科」が活動を開始しました。現在、当院のがん診療は大きく変わりつつあります。

【活動内容】

「外来化・在宅化」「集学化」「チーム医療」「医療連携」

2019年1月新棟が開設され、その5階に「がん治療センター」が新設されます(図1)。“患者は自宅で暮らし、仕事を続けながら治療を受ける。外科、内科、放射線科など多科の医師が治療を計画する。医師とメディカルスタッフが協働して治療やケアを行う。専門病院と地域の医療機関が連携して治療やケアを支える。”このようながん診療が行われるように、腫瘍内科は以下の3つのセンターを構築します。

①「がん相談支援センター」

治療や療養など医療の相談、生活面や金銭面などへの支援、医学や医療、施設・設備などの情報収集や提供、さまざまな医療機関への連絡や紹介など、がんと診断された時点からお手伝いを開始します。

②「がん化学療法センター」

化学療法専門の医師、看護師、薬剤師、MSWを中心とした多職種チームを配置しています。入院・外来を問わず、どの科で治療が行われても、院内すべての化学療法に対して検討会を設けて管理しています。

③「緩和ケアセンター」(緩和ケアチーム、緩和ケア外来、緩和ケア回診)

専門の医師、看護師、薬剤師を配置しています。毎日緩和ケア外来を開設しています。週1回木曜日14時30分から、院外の医療スタッフも交え、全科の緩和ケア回診を行っています。新たに、「リンパ浮腫チーム」「口腔・嚥下ケアチーム」「せん妄予防チーム」を準備し、2018年から活動を開始します。

【今後の展望】

最新の治療により治療効果を上げることは大切です。そして患者のQOLへの配慮も大切です。そのためすべてのがん患者に、患者のQOL(生活の質)をチェックする手帳「わたしの記録」(図2)を配布して、生活状況の観察を始めました。患者の身体面、精神・心理面、経済面、生活面などを観察します。副作用が少なく、安全で、しかも質の高い化学療法が提供できるように改革を進めています。また、緩和ケアにも活用し、地域の医療連携にも繋がりたいと計画中です。

腫瘍内科が活動して2年8か月、県内さまざまな施設から多くの患者さんを紹介して頂いています。そして、各施設に多くの患者さんを療養目的でお引受け頂いています。がんが国民の生活及び健康にとって重大な課題となっている現在、当院は新たな取り組みを今後も続けて参ります。



図1 がん治療センター (2019年1月完成)

生活の質を観察する



図2 「わたしの記録」

【腫瘍内科医師】

境 健爾：オンコロジストの育成、県全体のがん診療連携や集学的治療の向上

榮 達智：すべてのがんの化学療法及び緩和ケアを担当

磯部博隆：緩和ケア回診、緩和ケア外来、地域医療連携を担当

山本春風：婦人科がんを中心にすべてのがん種の化学療法を担当

いま、国立病院機構
熊本医療センターで
何が研究されているか

シリーズ120回

当院の病院食の改革～うまみ成分の有効利用～

四元有吏 北向由佳 北村渚 志岐歩美 関塚結 今村美咲
山下晶穂 平江有里 阪野未都子 梅本保奈美 高橋毅

病院給食は、栄養管理や栄養指導の媒体であり治療の一環として非常に重要な役割を担っています。このことから、管理栄養士は、約130食種の献立を作成する際に病態ごとに取りきめている栄養価にあわせることを最重要事項としています。

しかしながら、治療中の患者様であっても毎食の食事は、入院生活における「楽しみ」であり「おいしい」ということを求められます。このため、治療食であっても「おいしい」と思えない食事は、食べ残されてしまうこととなります。

このことから、栄養管理室では、管理栄養士の責務と現在提供している当院の病院食が乖離している現状について問題点を明確にすることから取り組みをいたしました。

【問題点】

- ①42日のサイクル期間で同じ食種、同じ料理であっても食材、調味料の使用量が異なっている。
- ②「だし」を必要とする料理に「だし」が記載されていない。
- ③「だし」は、調理師の経験則により加えられているため同じ料理であっても調理師によって使用する「だし」の量が異なっていた。

このことは、毎週金曜日に献立担当の栄養士、調理師が行っている病棟訪問での聞き取りにおいても約14%の患者様から「味が濃いときと薄いときがある」「なんの味もしない」というご意見としてあがっていました。

また、毎年9月に実施される『患者様退院時アンケート』の食事満足度の項目では、平成28年度が全体の9%、平成29年度は、5%の患者様が当院の食事について「わるい」「すごくわるい」と回答されていました。

以上の結果から熊本医療センターの栄養管理室では今後次のようなことを計画しています。

料理に「だしのうまみ」を効かせる。

「だしのうまみ」は、限られた塩分であっても食材の持ち味を引き立て、調理の味に深みを加えると言われる、だしのうま味をうまく使うことで料理の総Na量を抑えることも可能であると言われています。また、うまみは、対応するたん白質でできた受容体があり、うま味情報が脳に伝達されることでたん白質消化の準備が開始することも知られています。このように様々な効果の期待できるうまみ成分の活用ですが11月までに料理ごとに加えるだし量の設定が終了し12月1日からは、その評価を行ってまいります。

併せて、高橋院長のご発案により熊本ホテルキャッスルのシェフから「だしの取りかた」「だしの有効な使い方」などホテル調理のノウハウを病院食へご指導いただく計画についても現在進行中です。

病院食＝「うすい」「まずい」ではなく、健康だけど病院食を食べてみたいという食事作りを目指した取り組みについて、今後も情報発信していきたいと存じます。



当院の糖尿病食

研修医レポート

臨床研修医

すぎたに ひろのり
杉谷 浩規



こんにちは、研修医一年目の杉谷浩規と申します。久留米大学を卒業し、本年度四月より熊本医療センターにて初期研修をさせて頂いております。故郷である熊本で医師としての第一歩を踏み出すことができ、とても嬉しく思います。研修開始から約九ヶ月が経ちますが、まだまだ診療やその他の業務についてもわからないことが多く、スタッフの皆様に迷惑をおかけしながら奮闘する日々です。

私の研修は外科からスタートし、麻酔科、救命救急部、腫瘍内科、血液内科の順にローテートし、現在(十二月下旬)は呼吸器内科にて研修中です。二月中旬より消化器内科にて研修予定となっています。四月

当初はわからないことだらけの状態、電子カルテの使い方や薬の処方、検査のオーダーなど医療行為以前の段階で困惑する日々でした。初歩的な質問にも嫌な顔なさらず親切に答えて下さり、おかげさまでどうにかこなせることが増えてきました。指導医の先生をはじめ、各科の先生方、二年目の研修医の方々、また様々な医療スタッフの方々にとっても感謝しております。医療行為におきましては、まだまだ自分の至らぬ点を痛感する日々ではありますが、麻酔科研修当初は末梢静脈路確保さえままならない状態であった私が腫瘍内科や血液内科で研修時には化学療法導入時の末梢静脈確保、また中心静脈穿刺や末梢挿入型中心静脈カテーテル挿入を行うことができるようになり、僅かではありますが成長を実感することができました。このような小さな成長を積み重ね、医師として日々成長していきたいと考えています。

救急外来の当直、研修科のオンコールと忙しい日々ではありますが、周りの先生方から熱心なご指導を頂き、充実した研修を送らせていただいております。至らぬ点がまだまだありこの先ご迷惑をおかけすることも多々あるとおもいますが、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしく願いいたします。

臨床研修医

まつばら けんた
松原 顕太



こんにちは。研修医1年目の松原顕太と申します。平成29年に熊本大学医学部を卒業し、同年4月よりプライマリケアコースで初期研修をしております。今年度も残すところ3ヶ月ほどとなりましたが、社会人としても研修医としても新しく経験することが多く、日々様々なことを勉強させていただいております。

現在まで、神経内科、消化器内科、麻酔科、循環器内科、救急外来、血液内科の6つの診療科で研修をさせて頂いただき、残すは外科での研修のみとなりました。4月はまず部門研修から始まり、看護師さんの仕事量の多さに驚き、くたくたになったことを思い出します。病棟業務が始まり、右も左も分からない状態の中、周囲の方々に助けていただくことで徐々に慣れていくこ

とことができました。神経内科では、学生時代に見ることの少なかった神経急性期疾患を経験し、苦手意識を克服することができました。消化器内科では、頻度の高いものから重症疾患まで経験し、腹部エコーの手技を習得できたことが大きな糧となりました。麻酔科では、気管挿管や動静脈ルート確保等の手技、薬剤の使い方を含めた全身管理を学ぶことができました。循環器内科では重症疾患の症例を数多く経験することを通して心エコーや病態の考え方、薬剤の使い方等を勉強し、そのことが診療する上での大きな自信となったと感じています。救急外来では、重症度の判断、疾患の鑑別、救命処置等を学びました。現在は血液内科で、血液悪性腫瘍を中心に症例を経験しております。

20名余の同期や医局の先生方との交流も盛んで、病院内外で非常に充実した日々を送っています。来年度はプライマリケアコースの連携病院での研修となりますが、こちらもまた充実したものになると確信しております。今後ともよろしく願い申し上げます。

研修のご案内

第9回 診断と治療—最新の基礎公開講座—

[日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]

日時▶平成30年2月17日(土)15:00~17:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

座長：野津原内科医院 理事長

野津原 昭 先生

演題：「日常診療の中の呼吸器疾患」

1. 重症肺炎について

国立病院機構熊本医療センター救急科医長

北田真己

2. 喘息

国立病院機構熊本医療センター呼吸器内科/感染症科医長

小野 宏

3. 肺癌

国立病院機構熊本医療センター呼吸器内科医長

名村 亮

〔問合せ先〕 国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501 (代表) 内線2630 096-353-3515 (直通) FAX 096-352-5025(直通)

第228回 月曜会(無料)

(内科症例検討会)

[日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]

日時▶平成30年2月19日(月)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター研修室2

1. 内科症例検討 診療で遭遇した興味ある症例の検討を行います。

「第1症例 悪性症候群発症後に急死した2症例」

国立病院機構熊本医療センター救命救急部

狩野巨平

「第2症例 海外渡航後の発疹・発熱の一例」

国立病院機構熊本医療センター総合診療科医長

辻 隆宏

2. ミニレクチャー「血液内科からの症例」

国立病院機構熊本医療センター血液内科

上野満徳

日頃、疑問の症例、興味のある症例、X線、心電図、その他がございましたら、ご持参いただきますようお願い致します。

〔問合せ先〕 国立病院機構熊本医療センター教育研修部長 富田 正郎 TEL: 096-353-6501 (代表) FAX: 096-325-2519

第158回 救急症例検討会(無料)

日時▶平成30年2月21日(水)18:30~20:00

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

テーマ：「呼吸不全」

国立病院機構熊本医療センター循環器内科部長

藤本和輝

国立病院機構熊本医療センター呼吸器内科医長

名村 亮

※症例呈示とミニレクチャーを用意しています。

医師、薬剤師、看護師、放射線技師、臨床検査技師、栄養士、救急隊員、事務部門等、全ての医療従事者を対象とした症例検討会です。医師以外の方にも理解できるよう配慮した内容にしています。

事前参加のお申し込みは必要ありませんので、ご自由にお越しください。

〔問合せ先〕 国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501 (代表) 内線2630 096-353-3515 (直通)

2018年 研修日程表 2月

国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

2月	研修センターホール	研 修 室
1日(木)	8:15~8:45 二の丸モーニングセミナー 「精神科の救急疾患」 国立病院機構熊本医療センター精神科部長 山下 建昭	
2日(金)		
3日(土)	13:30~16:30 第281回 熊本県滅菌消毒法講座 講演Ⅰ「中央材料部職員の教育と職場安全」 講演Ⅱ「洗浄滅菌装置のメンテナンス法」	
4日(日)		
5日(月)		
6日(火)		
7日(水)		
8日(木)	8:15~8:45 二の丸モーニングセミナー 「小児の発熱とけいれん」 国立病院機構熊本医療センター小児科医長 森永 信吾	
9日(金)		
10日(土)		
11日(日)		
12日(月)		
13日(火)		
14日(水)	18:30~19:30 第45回 熊本緩和ケアカンファレンス	
15日(木)	8:15~8:45 二の丸モーニングセミナー 「皮膚科 感染症から学ぶ救急〜上の巻〜」 国立病院機構熊本医療センター皮膚科医長 牧野 公治 20:00~21:30 第77回 医歯連携セミナー 「食道疾患の外科的治療」 国立病院機構熊本医療センター外科部長 宮成 信友	
16日(金)		15:30~16:45 肝臓病教室(研2) 「医療費助成制度、B型・C型肝炎の抗ウィルス治療」
17日(土)	15:00~17:30 第9回 診断と治療 -最新の基礎公開講座- 「日常診療の中の呼吸器疾患」 [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定] 座長 野津原内科医院 理事長 野津原 昭 先生 1. 重症肺炎について 国立病院機構熊本医療センター救急科医長 北田 真己 2. 喘息 国立病院機構熊本医療センター呼吸器内科/感染症科医長 小野 宏 3. 肺癌 国立病院機構熊本医療センター呼吸器内科医長 名村 亮	
18日(日)		
19日(月)		19:00~20:30 第228回 月曜会(内科症例検討会)(研2) [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]
20日(火)		
21日(水)	18:30~20:00 第158回 救急症例検討会 「呼吸不全」	
22日(木)	8:15~8:45 二の丸モーニングセミナー 「整形外科の救急疾患」 国立病院機構熊本医療センター整形外科医長 平井 泰博 14:00~15:00 第59回 市民公開講座 「肺炎について」 国立病院機構熊本医療センター呼吸器内科医長 小野 宏 18:30~20:00 熊本県臨床細胞学会 <細胞診月例会・症例検討会>	19:00~21:00 熊本脳神経疾患懇話会(研2)
23日(金)		
24日(土)		
25日(日)	8:30~17:00 熊本県臨床細胞学会 学術集会・総会	
26日(月)		
27日(火)	18:30~20:30 血液研究班月例会	19:00~21:00 小児科火曜会(研1)
28日(水)		

研1~3 2階研修室1~3

※二の丸モーニングセミナーにつきまして、詳細はホームページ(<http://www.nho-kumamoto.jp/>)をご参照ください。

問い合わせ先 〒860-0008 熊本市中央区二の丸1番5号 国立病院機構熊本医療センター2階 地域医療研修センター TEL 096-353-6501(代) 内線2630 096-353-3515(直通)